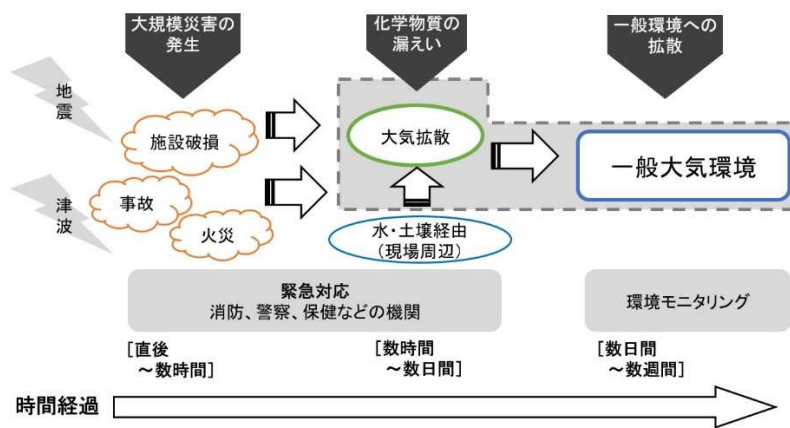


災害等の発生時における環境モニタリング手法に関する研究

1. 事業の概要

災害等の発生により化学物質（揮発性有機化合物）が漏洩した場合、住民の安全・安心を確保するには、平常時の濃度に戻るまでの間、できるだけ多くの地点で大気環境モニタリングを行うことが必要です。

しかし、発災後は通常のサンプリング方法の機材や技術者等の確保が難しいことが予測されるため、本研究では、専用の機材や技術を必要とせず、多種類の化学物質に対応する簡便なサンプリング方法によるモニタリング手法の構築を目的としています。



通常法（キャニスター）

2. 令和元年度の実施状況

県内排出量と毒性を考慮して優先的に取り組む化学物質（ベンゼン等 14 物質）を選定し、水島コンビナート近郊で通常のサンプリング方法による平常時の濃度の把握を開始しました。あわせて、コンビナートの影響が比較的少ないと考えられる地域 4 か所（既存環境大気測定局等）の濃度の把握を開始し、比較検討を行うこととしています。

また、発災後を想定した簡便なサンプリング方法については、ポンプ等の機材が不要で、測定地点に置くだけでサンプリングが可能な器具（パッシブサンプラー）を用いた大気中の化学物質の検出法を検討しました。その結果、トルエン及びキシレン等の検出が可能であることが判明しました。



簡易法（パッシブサンプラー）

担当部署

環境保健センター 環境科学部 大気科